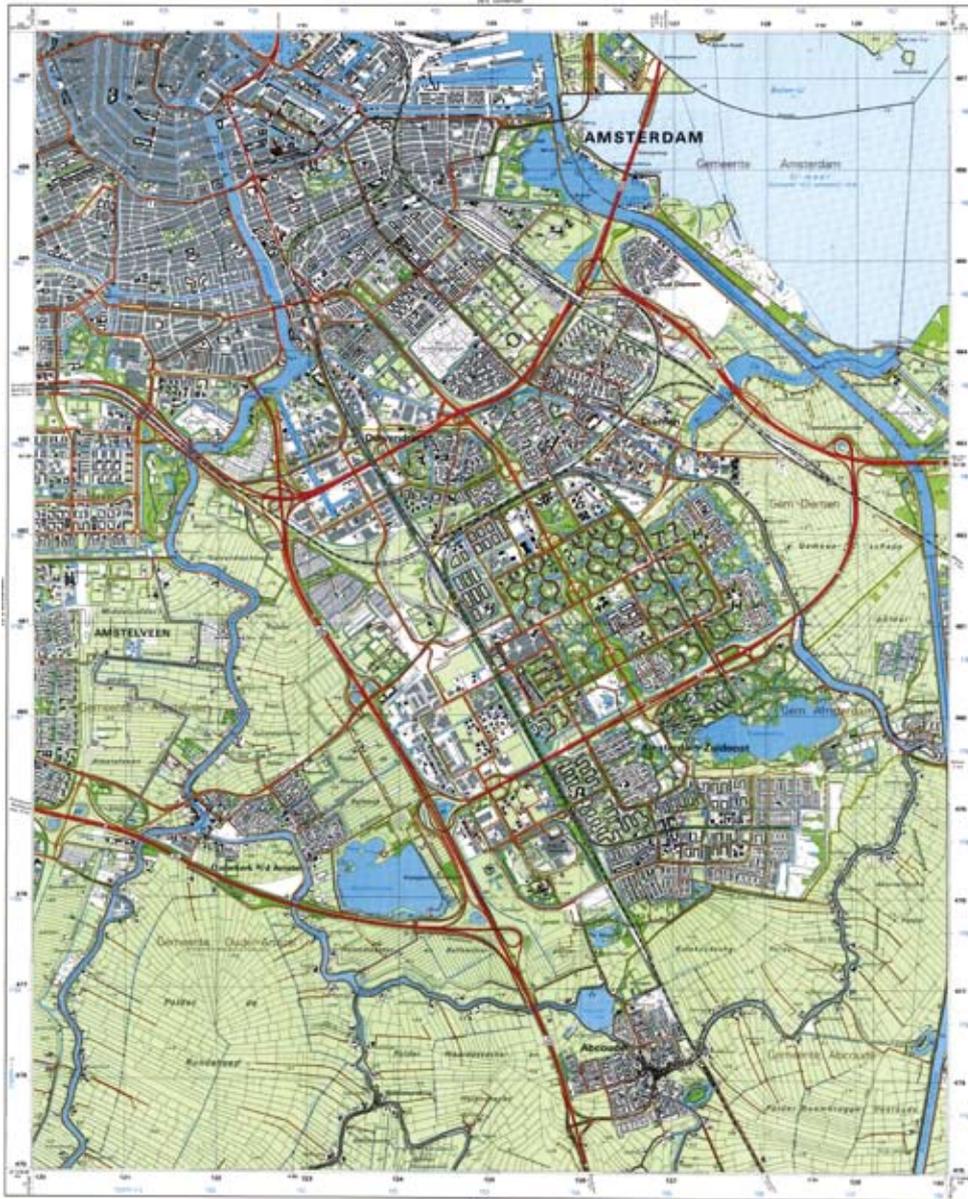


分布図情報



TOPOGRAFISCHE KAART VAN NEDERLAND 1:25,000
BLAD 25G AMSTERDAM (1994)・原寸50×40cm

2008年が日蘭修好通商条約締結150周年、2009年は徳川家康により日蘭貿易が開始されてから400周年ということから、2008年と2009年は「日本オランダ年」です。

オランダの正式名称「ネーデルラント」は、低い土地という意味で、国土の4分の1が海拔0m以下です。明治期、木曾三川分流工事に携わったヨハネス・デレーケはオランダ人技師でした。

首都アムステルダム（図の左上）も小さな漁村でしたが、13世紀にアムステル川の河口にダムを築いて干拓をおこない、東インド会社の本社をおいた17世紀には黄金時代を迎えました。現在、アムステルダム中央駅を中心に運河が網の目状に広がる旧市街地は歴史的なたたずまいを残しつつ、住民の多くは郊外のニュータウン（住宅団地）に住んでいます。

オランダの地図を見ると、橋では「跳ね橋」など4種類もの地図記号があり、舟運の発達分かります。また、人口一人当たりの自転車保有率が世界一で、道路には自転車専用道路の凡例があります。起伏のない地形や地球温暖化による海面上昇に敏感な国民の意識などが読み取れます。

（岐阜県図書館蔵）

表紙	1
世界分布図センターのサービスのご案内	2
平成20年度の取り組み	
収蔵資料展示	3
第14回児童生徒地図作品展	4
地図講演会・地図講座・わくわく地図教室・館外展示	6
平成21年度の催し物	7
ふるさと地形ウォッチング	8

世界分布図センターのサービスのご案内

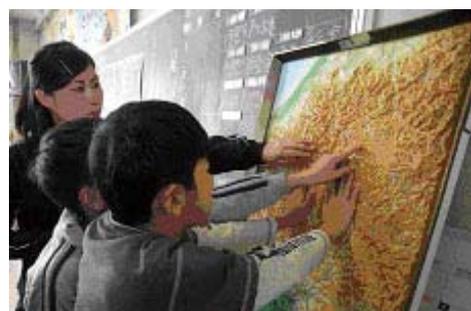
世界分布図センターは、約15万点の地図を収蔵する国内屈指の「地図資料館」です。当センターは次のようなサービスで、教育活動や各種業務、余暇活動をサポートします。

●地図（画像）の特別貸出をしています。 （貸出返却は郵送でも対応します）

平成20年度は県内自治体や学校、新聞社等から約40件の利用がありました。

（例）岐阜大学教育学部附属小学校4年生（6月）

—岐阜県の地形を調べる授業で「立体地図」を貸し出しました。



<特別貸出>

●地図の複製や白地図などの作成をしています。 （B0サイズまで対応します）

大型プリンターを利用して、古地図の複製や夏休み等の学習用白地図の作成など約150件の利用がありました。

（例）岐山高校郷土研究部（4月）

—地域調査のため「岐阜市北部商工案内図」（古地図）を複製しました。



<各種研修>

●施設見学や当センターを利用した各種研修 ができます。

平成20年度は見学7校（小5、高1、大1）と研修5件（教員4、大学1）の利用がありました。

（例）瑞穂市教科等研究会（8月）

—社会科部会の先生方が地図の教材研修を行いました。



<出前授業>

●地図を活用した出前授業をしています。 （交通費、資料代等は不要です）

平成20年度は11校（小6、中2、高1、大学2）で出前授業を実施しました。

（例）可見市立旭小学校4年生（9月）

—岐阜県の位置と地形についての授業を行いました。

世界分布図センターが所蔵している地図は下記のサイトで検索できます。

▲世界分布図センター <http://www.library.pref.gifu.jp/map/index.html>

収蔵資料展示

■地図で見る日本の町並みⅣ

～歴史が生きる景観～ 3月29日～5月29日

全国38都道府県に80地区選定されている「重要伝統的建造物群保存地区」の中から、東北地方の武家町(弘前、角館)や近畿地方の寺内町(今井、富田林)など13地区を、地形図や古地図、イラストマップなどで紹介しました。



角館観光案内図

■地図の日記念展示「伊能図の種類」

～大図・中図・小図～ 4月15日～5月6日

伊能忠敬が蝦夷地の測量に出発した4月19日を記念した「地図の日」にちなんで伊能大図、中図、小図を展示するとともに、伊能忠敬の生涯や当時の測量技術について紹介しました。



伊能中図

■外邦図で見る戦前のアジアと世界5

～北支(中国北部地方)～ 5月31日～7月24日

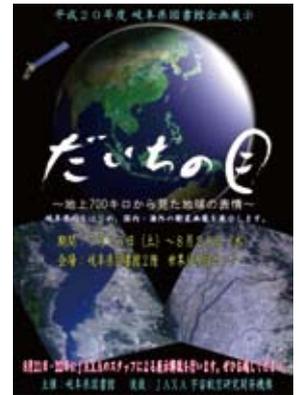
当館が所蔵する14,000枚におよぶ外邦図(戦前の陸軍参謀本部陸地測量部が戦略上作製した日本以外の地図)のうち、北支(中国北部)を中心に紹介しました。この地域は文化遺産や歴史遺産が数多く残り、また日中戦争や戦後の日本企業の進出など日本と深い関わりを持った地域です。古地図や現在の地図、写真なども展示しました。

■だいちの目

～地上700キロから見た地球の表情～

7月26日～8月28日

2006年、宇宙航空研究開発機構(JAXA)が打ち上げた純国産陸域観測技術衛星「だいち」の衛星画像27点の提供を受け、「宇宙から見た郷土」、「宇宙からみた日本各地」、「飛び出す衛星画像」など5つのテーマに分けて展示しました。地形図と比較しながら見られるようにするとともに、JAXA職員による説明会(解説)も行いました。



■地図でたどる世界遺産Ⅱ

8月30日～10月30日

日本の世界遺産14地域のうち、「白神山地」、「日光の社寺」、「古都奈良の文化財」、「熊野山地の霊場と参詣道」、「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の5地域を取り上げ、古地図や地形図、自治体等関係機関が作製したイラストマップや写真などで紹介しました。



日光山全図(鬼平金四郎 1889年刊)

■古地図の世界Ⅷ

～日本図～

1月6日～3月26日

「日本図」をテーマに、ヨーロッパ人が描いた日本図と日本人が描いた日本図を展示し、地図における日本のかたちの変遷を紹介しました。ヨーロッパ人が想像(伝聞)で描いたオルテリウス型地図や石川流宣が描いた流宣日本図、長久保赤水による「赤水日本図」などを展示しました。



IAPONIA(日本図) (作者不明 1628年刊)

第14回

児童生徒地図作品展

地図の作品づくりを通して、自分の住む身近な地域や県内外の社会的な事象等に興味や関心をもち、これからの社会を生きぬく力や確かな国土観・世界観を培うことを願い始めた児童生徒地図作品展は、今年度で14回目を迎えました。

応募数は、県内の小・中・高等・特別支援学校から、過去最高となる379点の応募がありました。個性豊かで力作揃いの中から、岐阜県知事賞、岐阜県教育長賞等16点が入賞、46点が入選しました。

「世界で一つだけの地図づくり」の魅力

(1)自分だけのテーマで

子どもたちが生活している中で、疑問に思ったことや調べてみたいこと等が、そのまま地図作品のテーマとなります。

このテーマに沿って、一人一人の子どもたちが、「このことをもっと詳しく調べたい。」「調べたことをまとめたい。」「だれかに伝えたい。」という様々な思いを作品に込めることができます。

(2)個性的な調査・分析・表現

子どもたちが創り出す地図は、どれも大変魅力的です。それは、一人一人の感性や力で生み出した誰にもまねができない作品だからです。

社会的な事象にどっぷりと入り、独自の方法で丹念に調べ、得られた事実を分析して個性的にまとめていく。そのような過程を一人一人が経験できるのです。

(3)力が伸びる

子どもたちは、上記の作品づくりの過程で社会をもっと身近に感じ、具体的にとらえることができるようになります。そして社会的なものの見方や考え方がより確かなものになり、社会認識を深めていくことができます。

この繰り返し・蓄積が、これからの社会を生きぬく力や確かな国土観・世界観を培うことにつながっていくのです。

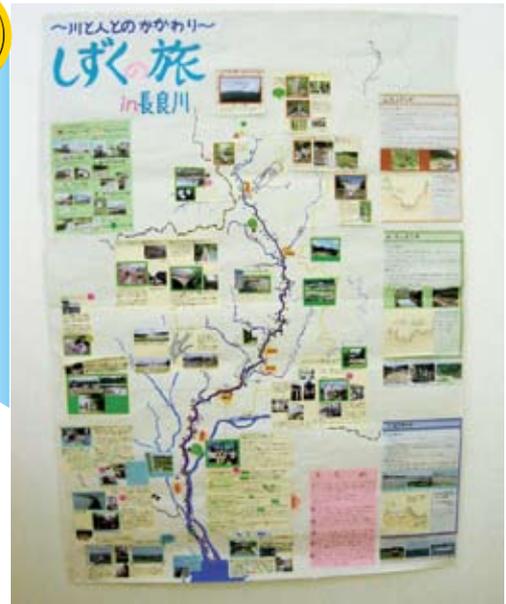
～今年度入賞作品の中から数点を紹介します～

「しずくの旅in長良川～川と人とのがかわり～」

岐阜大学教育学部附属小学校4年 成戸 雪季



岐阜県知事賞・
国土交通大臣賞



※この作品は、第12回全国児童生徒地図優秀作品展（国土地理院主催）において、「国土交通大臣賞」を受賞し、平成21年1月14日に、金子国土交通大臣から表彰を受けました。



金子大臣に作品の説明する成戸さん(国土交通省にて)



岐阜県教育長賞



「食材はどこから？」
岐阜市立三輪南小学校4年 藤吉 由衣



国土交通省
国土地理院長賞



「日本20 (TWENTY) クイズ！」
岐阜市立加納西小学校1年 寺本 琉夏



岐阜県教育長賞



「がんばれ! やながせ商店街！」
本巣市立席田小学校5年 棚橋 穂南



財団法人日本地図センター
理事長賞



**「ほくの町の公しゅう電話マップ
~遊びに来てくれるおばあちゃんのために~」**
岐阜市立三里小学校3年 土田 雄大



岐阜県教育長賞



「道の駅の店員さんに聞いた人気のお土産ベスト3マップ」
岐阜県立郡上特別支援学校中学部2年 後藤 俊貴

これら合計62点の作品は、11月1日(土)から12月28日(日)まで、世界分布図センター内で展示しました。
この展示のアンケート結果から、多くの方が子どもたちの努力や作品の素晴らしさを感じていただけたことが分かりました。
来年度もたくさんの応募があることを期待しています。
なお、ホームページでも第1回から今回までの児童生徒地図作品展について紹介しています。ぜひご覧ください。
<http://www.library.pref.gifu.jp/map/index.html>

地図講演会

(岐阜県古地図文化研究会、岐阜地理学会共催)

「世界遺産候補・骨寺村の景観～荘園絵図を読み解く～」
國学院大学文学部教授 吉田 敏 弘 先生

地図について関心と理解を深めていただくことを目的として、毎年地図講演会を開催しています。

7月20日(土)、「世界遺産候補・骨寺村の景観～荘園絵図を読み解く～」と題し、國学院大学文学部教授吉田敏弘先生に講演をしていただきました。

岩手県一関市本寺地区は古くは骨寺村とよばれ、中尊寺の荘園であったところです。ここは過去の農村風景の面影をよくとどめているということで、中尊寺と併せて世界遺産に登録しようという動きがあります。この地区に残る中世の荘園絵図から中世骨寺村の景観や成立事情を読み解き、中世の面影を残す景観要素のオーセンティシティ(真正性)と、世界遺産としての学術的価値について話されました。



陸奥国骨寺村絵図

■ 地図講座「地図に歴史を読むⅢ」

(岐阜県古地図文化研究会、岐阜地理学会共催)

- 第1回 8月9日(土)
「地図を読む」
「木曾川と各務原・長良川と岐阜」
今井春昭先生(中部学院大学)
- 第2回 8月16日(土)
「輪中地域と災害」
安田 守先生(大垣南高等学校)
- 第3回 8月23日(土)
「美濃加茂市における丘陵開発と交通機能の発達について-可見市との比較において-」
原 賢仁先生(加茂高等学校)

わくわく 地図教室

7月23日(水)と24日(木)、講師に地図研究家の渡辺一夫先生をお招きし、小中学生を対象にした「わくわく地図教室」を実施しました。

23日(水)の小学校低学年の部では、『どっちが東?地図の記号ってなに?』というテーマで、方位と地図の関わりを学習したり、地図記号のカルタ取りを行ったりしました。

24日(木)の小学生高学年・中学生の部では、『地図づくりのための取材術』というテーマで、取材時の道具の使い方や絵地図作成のコツを学んだり、地形図を活用する学習を行ったりしました。

地図教室に参加した低学年の児童からは、

「地図をかくことはかんたんだったけど、思ったよりむずかしかった。でも、自分の家の近くをかいいたり、記号を考えてかくことは、とても楽しかった。またやってみよう。」

という嬉しい感想が寄せられました。

児童たちはこの教室を通して、自分で地図を読んだり描いたりする楽しさや喜びを味わい、より一層、地図に関心をもってくれたようでした。



渡辺先生からアドバイスを受ける児童

■ 館外展示

「古地図の世界—名所旧跡図—」

大野町総合町民センター 4月1日～4月20日

「児童生徒地図作品展」

岐南町図書館 5月14日～5月30日

瑞浪市図書館 6月3日～6月29日

郡上市しろとり図書館 6月1日～6月29日

郡上市はちまん図書館 7月1日～7月31日

大垣市立図書館 7月16日～7月31日

「だいちの目—地上700キロから見た地球の表情—」

美濃加茂市中央図書館 10月1日～10月22日

ハートピア安八 11月1日～11月30日

平成21年度の催し物

■ 収蔵資料展示

大正昭和の鳥瞰図絵師
吉田初三郎の描いた日本
3月28日(土)～5月28日(木)

● 吉田初三郎 1884(明治17)年～1955(昭和30)年

一直線に続く鉄道、ひときわ大きく描かれた神社や旅館、水平線上の朝鮮や台湾、そして必ず登場する富士山。初三郎鳥瞰図は、見えるはずのない、あるはずのない風景を堂々と描いています。「遊び心」に満ちた作品は私たちのイメージを喚起させ、旅へと誘ってくれます。

※5月9日(土)には、藤本一美氏(鳥瞰図・展望図資料室主宰、首都大学東京非常勤講師)を招いて、展示に関する文化講座(入場無料)を開催します。



世界一景 岐阜長良川鶺鴒鳥瞰図 1935(昭和10)年 岐阜県図書館蔵

地図で旅する中山道 ～御嵩から今須～

5月30日(土)～7月30日(木)

中山道は東海道と並んで江戸と上方を結ぶ二大幹線道路で、宿場は参勤交代の大名から寺社詣の庶民まで多くの往来者でにぎわいました。今回は東の落合から西の今須までの美濃十六宿のうち御嵩から今須の十一宿をとりあげ、往時の面影をたどります。

- | | |
|---------------------|-------------------------------|
| 8月 1日(土)～8月27日(木) | 「外邦図で見る戦前のアジアと世界Ⅵ -南支(中国南部)-」 |
| 8月29日(土)～10月29日(木) | 「伊勢湾台風50年事業 -災害と地図、防災と地図-」 |
| 10月31日(土)～12月24日(木) | 「第15回児童生徒地図作品展」 |
| 1月 6日(水)～3月25日(木) | 「古地図の世界Ⅹ -鳥瞰図Ⅰ-」 |

■ 地図講演会

7月18日(土) 午後1時30分～3時 県図書館1階多目的ホール

演題 「古地図などから見たベネルクス諸都市の変容」

講師 奈良女子大学文学部教授 戸祭 由美夫 先生

■ わくわく地図教室

第1回7月22日(水) 小学校1年生～小学校3年生 午後1時30分～4時30分

第2回7月23日(木) 小学校4年生～中学生 午後1時30分～4時30分

・地図の本を多数執筆されている渡辺一夫先生による「地図づくりの楽しさ・おもしろさ」講座です。

・希望者は往復はがきを受講者名・学年・住所・電話番号・返信宛先を明記し、7月3日(金)までに申し込んでください。希望者が多数の場合は抽選で決定します。

■ 地図講座

～地図に歴史を読むⅣ～

第1回8月1日(土)、第2回8月8日(土)、第3回8月22日(土) いずれも午後2時00分～3時30分

・定員は各回40人、先着順で定員になり次第締め切ります。7月24日(金)までに申し込んでください。

・連続講座ではありませんので、各回ごとの申し込みも可能です。

※催し物は予定ですので変更することがあります。

赤坂宿と金生山

大垣市赤坂町は、中山道五十七番目の宿場町として栄え、皇女和宮降下の際には宿泊地となりました。本陣の建物は今はなく、跡地は公園となっています。本陣跡から北に向かう道は谷汲巡礼街道とよばれ、西国三十三カ所めぐりの谷汲山華嚴寺へ通じていました。(図1)

赤坂中学校(本陣西250m)の東隣には、江戸初期、将軍が上洛したときなどに休泊に使ったお茶屋屋敷跡があり、当時を偲ぶ土塁などが残っています。現在は牡丹園として整備され、観光名所になっています。この南にある勝山は、もとは岡山とよばれていましたが、関ヶ原の戦いで徳川家康が本陣を置いて勝利したことから勝山に改められました。

赤坂は宿の東を流れる杭瀬川の川港としても栄えました。昔は揖斐川の本流でしたが、洪水で流れがかわり支流となりました。それでも水量は多く、江戸時代には米や木材などを河口の桑名まで運んでいました。明治から大正にかけては金生山の石灰や大理石を運ぶ500隻以上の川船が往来していましたが、鉄道の開通とともに衰退しました。また、河川改修工事などで流路も変えられ(図2)、往年の赤坂港(図1中山道と杭瀬川が交差する位置)は公

園の常夜灯に偲ぶのみとなっています。

赤坂宿の北に位置する金生山は標高217mの山で古生代ペルム紀(約2億9000万年～2億5100万年前)に海底に堆積してできた石灰岩層がその後の地殻運動で隆起してできたものです。この時期の生物の化石(ウミユリ・サンゴ・フズリナなど)が多数採取され、化石の宝庫としても有名です。

明治以降は、石灰岩を利用した石灰工業、大理石工業が発達しました。特に日清戦争後、工業用・肥料用の需要が高まり、昭和初期には美濃赤坂線、西濃鉄道が敷設され、本格的な生産・出荷が行われるようになりました。大規模な露天掘りによる生産は年々拡大し、金生山の山容を大きく変えてしまいました。数十年後には金生山はなくなってしまうと予想されています。(図1・2を比較)

金生山の頂上付近にある明星輪寺は、持統天皇の勅願により朱鳥元年(686)に役小角が七堂伽藍を創建し、虚空蔵菩薩を安置したと言われています。その後火災などで寺運は衰退しましたが、江戸時代に入って大垣城主戸田氏の保護を受け復興しました。明治以降、赤坂の虚空蔵さんとよばれ、人々の厚い信仰を集めています。

図1
1:20,000
地形図
「垂井」
(明治24年)
陸地測量部発行
65%に縮小



図2
1:25,000
地形図
「大垣」
(平成14年)
国土地理院発行
65%に縮小



「世界分布図センター」には、15万点を超える地図・分布図、地図関係図書があります。

また、コンピュータ及びGISソフトを使ってオリジナルな地図・分布図を作製、印刷することができます。

学習や調査研究、国内外の旅行の準備などお気軽にご利用ください。

岐阜県図書館 世界分布図センター

〒500-8368 岐阜市宇佐4-2-1
TEL (058) 275-5111(内線286)
FAX (058) 275-5115
URL <http://www.library.pref.gifu.jp/map/>
E-mail mapstaff@library.pref.gifu.jp